

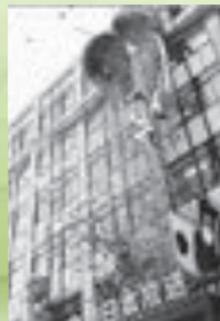
中部日本放送株式会社

証券コード：9402



第89期 報告書

平成26年4月1日～平成27年3月31日



株主の皆さまへ

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、当社第89期報告書(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)をお届けいたします。

中部日本放送(株)は昨年4月1日、認定放送持株会社へ移行しました。その目的は、グループ各社が『自立して個で強く、協調してなお強い』ことで安定した経営基盤を構築し、当社グループの基本理念である『地域

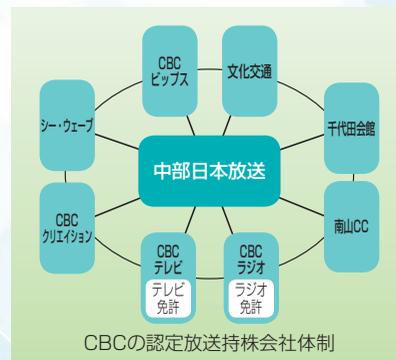
の情報インフラとして信頼ある放送を通じ地域社会に貢献すること』を将来にわたって継続することです。

この体制の下で、テレビやラジオなどのグループ事業会社8社が、持株会社である当社を中心に円を描き、さらに各社同士がお互いに縦、横、斜めの糸で結ばれることにより、様々な情報を集め、新たなビジネスをグループ全体で幅広く開拓していくことを進めてまいりました。

それでは、当社グループの経営戦略についてご説明申し上げます。



代表取締役社長
杉浦正樹



地上波放送の価値向上

メディア環境の変化や情報通信技術の進展により、消費者が情報を得るための手段がますます多様化しています。こうした動きの中で、ローカル放送局がその存在意義を發揮していくためには、地域の情報インフラとして、地域の信頼や期待に応えていくことが不可欠といえます。このため、CBCテレビは、地域に必要とされる情報を地域に提供しつつ、ネットワーク体制を通じて、全国にも支持される情報を発信し、地上波放送のプレゼンスを高めてまいります。

一昨年4月に分社化したCBCラジオは、当年度の聴取率調査で2年ぶりに総合1位を獲得し、業績の面でも3年連続の増収を達成しました。この勢いを更に伸ばしていくためには、リスナーにもスポンサーにも満足を提供できる番組を開発して販売するという基本戦略を徹底することが重要であると考えています。また、今年秋から始まるFM補完放送も活用し、安心で安全な暮らしを守るメディアとしての機能を更に高めることにより、媒体価値の向上とリスナー層の拡大を図ってまいります。

グループ事業の成長戦略

当社グループの活動の主軸は、今後も放送事業であることに変わりはありません。しかし、業界を取り巻く環境が今後も大きく変化していく可能性がある中で、当社グループが地域の情報インフラとしての役割を安定的かつ持続的に果たしていくためには、現業の放送ビジネスの高付加価値化を追求する一方、放送事業の枠組みやエリアにとらわれないビジネスの開拓により、将来成長に繋げる新たな収益モデルを確立させる必要があります。

当社が担う不動産賃貸事業においても現状における収益の最大化は勿論のこと、次を担う収益の柱を創出すべく、保有資産を中心とした新たな収益物件の開発もあわせて進めていきたいと考えています。

成長を支えるための基盤強化

グループ全体として今後、更なる成長を遂げるためには、グループ各社の個別最適化だけではなく、グループ全体最適の観点からシナジーを追求していく必要があります。そのために、グループの経営戦略を担う当社は、グループリソースを横断的に活用できる体制を確立するとともに、設備投資や資産運用についても、グループ全体で戦略的かつ効率的に実施してまいります。

また、活動拠点の物理的な強化も図ってまいります。昨年3月から始まった本社エリア再開発プロジェクトは、順調に進行しており、その第一期工事にあたる放送センターの増築工事は、

今年7月末に完了します。これにより、これまでCBC会館と放送センターで分かれていた放送事業のすべての機能が放送センターに集結し、有事においても地域の情報インフラとしての役割を確実に果たしていくための磐石な体制が整うこととなります。

更に次の第二期工事では、グループ会社の拠点となる西別館の建て替えを行い、第三期工事では、現在の本社機能のあるCBC会館の再開発を行う計画です。

新たな収益物件として構築するCBC会館の再開発については、当地区の活性化にも寄与できるような高度利用を検討してまいります。

また人材面では、グループ内での人的交流による活性化や女性や高齢者が活躍できる体制、制度の構築を進めることにより、グループ全体の競争力強化を図ってまいります。



創立65周年、そして持続的成長へ

日本で初めての民間放送局として誕生した当社は、今年12月に創立65周年を迎えます。これまでの歴史と伝統を原動力に、今後も当社グループは持続的な成長を果たすことにより新たな価値を創造し、すべてのステークホルダーに信頼されるべく、健全な社会の発展に寄与し続けていきたいと考えています。

株主の皆さまにおかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年6月

CONTENTS

株主の皆さまへ	1	〈ゴルフ場〉	10
CBCグループ事業概況	3	〈その他〉	10
〈放送関連〉 テレビ	3	業績ハイライト	11
イベント	5	連結貸借対照表（要旨）	12
コンテンツ	6	連結損益計算書（要旨）	12
ラジオ	7	連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）	12
グループ協業の成果	9	会社情報	13
〈不動産関連〉	10	株式情報・株主メモ	14

》放送関連

このセグメントは、中部日本放送(株)、(株)CBCテレビ、(株)CBCラジオ、(株)CBCクリエイションならびに(株)シー・ウェーブで構成されます。

「放送関連」は、年度末に向けて落ち込みを見せた広告市況の影響により、柱となるテレビスポット収入が減少したことから、売上高は293億44百万円(前期比0.5%減)となりました。利益面では、イベント事業やクロスメディア事業に利益率の改善があったことに加え、減価償却費が減少したことから、営業利益は9億79百万円(前期比2.0%増)となりました。

テレビ



©T.A.CBC

情報番組のさらなる強化

CBCグループの中核をなすテレビ事業は、視聴率向上によりCBCのブランド価値を底上げすることを目指しました。そのための戦略として、前期の大型改編で誕生した平日午後帯の4時間情報生ワイドゾーンにおいて、気象情報の発信を強化しました。

2年目を迎えた情報生ワイド番組『ゴゴスマ～GOGO! Smile!～』(月～金曜 13:55～15:50放送)は、天気予報を、予報に応じた生活情報とともに紹介して気象コーナーの充実を図り、東海3県エリアの視聴率は平均で4%台に乗せるなど、視聴者の支持は確実に高まっています。この成果もあり、3月30日から前半の1時間(13:55～14:53)について、関東エリアでも放送が始まりました。



ゴゴスマ～GOGO! Smile!～

報道情報番組『イッポウ』(月～金曜 16:50～19:00放送)は、17時台に天気予報枠を増設し、昨今高まる視聴者の気象への関心に応えるとともに、異常気象や地震発生の際の減災を呼び掛ける報道特番にも力を入れました。気象、災害情報の発信強化は、異常気象や地震などの発生時に真っ先にCBCテレビを頼りにしていただけることを目指しています。

このほか、情報生ワイド番組『なるほどプレゼンター! 花咲かタイムズ』(土曜 9:25～11:30放送)は、スマホアプリ紹介コーナーの新設などにより視聴者の幅広い興味に応えるなどして年間の平均視聴率は9.4%を獲得し、7年連続で同時間帯1位となっています。



なるほどプレゼンター!
花咲かタイムズ



イッポウ



健康カプセル! ゲンキの時間

全国向け番組

レギュラー番組では、日曜の朝と夜にそれぞれ、3年目を迎えた『健康カプセル! ゲンキの時間』(日曜 7:00～7:30放送)と『旅ずきんちゃん～全日本 のほほ～ん女子会～』(日曜 23:30～24:00放送)を放送しています。

このほかにも単発番組として、脚本家に地元岐阜県出身の北川悦吏子を起用し、ロケ地も岐阜県としたスペシャルドラマ『月に行く舟』で大人の恋愛を描き、海外ドキュメンタリーでは南太平洋にザトウクジラを訪ね、親子で寄り添う様子など珍しく貴重な映像を満載して生命や自然の神秘を伝えました。これらの番組を通して、地元への思いとともに世界や地球へのまなざしを全国に示しました。



旅ずきんちゃん～全日本 のほほ～ん女子会～



月に行く舟

当期の年間平均視聴率は、全日帯(6:00～24:00)7.0%、ゴールデンタイム(19:00～22:00)10.9%、プライムタイム(19:00～23:00)10.7%で、いずれも前期を下回りました。

イベント



ゴルフ

男子ゴルフの『第55回中日クラウンズ』(5月)は55回の記念大会を迎え、歴代チャンピオンが熱戦を繰り広げる『チャンピオンズマッチ』を20年ぶりに開催し、あらためて大会が刻んだ歴史と伝統を印象づけました。ギャラリーは本戦4日間で40,603人を集め、男子ゴルフ国内トーナメント7年連続第1位の観客動員を記録しました。



第55回中日クラウンズ
優勝の金亨成選手

音楽など

『第37回名古屋国際音楽祭』は、全7公演を開催し、中でも世界的なヴァイオリニスト、樫本大進(7月)、五嶋龍(7月)の2公演はチケットも完売となり、今回のシリーズのハイライトとなりました。



熊川哲也Kバレエカンパニー
「ロミオとジュリエット」



松竹大歌舞伎

また、『ボストン』(10月)などの大型ロック・ポピュラー公演や『熊川哲也Kバレエカンパニー「ロミオとジュリエット」』(6月)、『松竹大歌舞伎』(11月)などバラエティに富んだ公演を数多く開催しました。中でも『ジェフ・ベック』(4月)、『TOTO』(4月)、『ボブ・ディラン』(4月)、『青春のグラフィティコンサート2015』(1月)の各公演は、チケットが完売する人気でした。



ジェフ・ベック

コンテンツ



自社コンテンツの販路拡大

シンガポールのATF(12月)や香港フィルムアート(3月)などの国際見本市に出展し、バラエティやドキュメンタリーの海外セールスに結びつけました。3夜連続で開催した舞台版の『劇場スジナシin名古屋』(7月)では、公演だけではなく、その模様を生で全国の映画館へ配信したのをはじめ、衛星放送への番組販売やDVD制作など多角的な展開により収益を上げました。

また、近い将来、新たなビジネスを生みだすための布石として、地元アイドルBOYS AND MENによる『ボイメン体操』を『ゴゴスマ〜GOGO! Smile!〜』内で放送したり、名古屋・大須のアイドルOS☆Uの楽曲をCBCラジオなどと共同制作したりといった取り組みも始めています。

映画

平成16年から続けている映画出資は当期、『クローズEXPLODE』や吉永小百合初プロデュース作品として話題となった『ふしぎな岬の物語』など7作品に行い、中でも実写版の『ルパン三世』は興行収入24億円を超える大ヒットとなりました。



©2014「ルパン三世」
製作委員会



©2014 高橋ヒロシノ
「クローズEXPLODE」
製作委員会



ラジオ



「地域No.1ラジオ局」を目指して

タイム・スポットとも厳しい営業環境の中、個々のクライアントニーズを盛り込んだ企画提案型セールスを展開し、恒例の『CBCラジオ夏まつり』（7月）、『CBCラジオ秋まつり』（11月）、新生活応援企画『YELL！キャンペーン』（3月）をCBCラジオの3大イベントと位置づけ、人を動かすメディアとしてのラジオをアピールするとともに売上増を目指しました。その結果、売上高は3年連続で前年超えを達成しました。



YELL！キャンペーン



CBCラジオ夏まつり



CBCラジオ秋まつり

平日深夜帯にベルト編成

中高生リスナーの新規獲得と次世代を担うパーソナリティの育成を目指し、14年ぶりに平日深夜帯に自社制作生ワイド番組『BOYS AND MEN 栄第七学園男組』（月曜 22:00～24:30放送）、『ナガオカ×スクランブル』（火～金曜 22:00～24:30放送）をベルト編成しました。



BOYS AND MEN 栄第七学園男組

ナガオカ×スクランブル



永岡歩アナウンサー



制作力の高さをアピール

12月の中京圏ラジオ個人聴取率調査で、2年ぶりに総合1位を獲得しました。また、地域の在宅医療に密着したドキュメンタリー『看取りのカタチ』が、平成26年度日本民間放送連盟賞ラジオ教養番組部門で最優秀に選ばれました。平成25年度文化庁芸術祭優秀賞に続く受賞で、CBCラジオの制作力の高さを全国にアピールしました。



看取りのカタチ

グループ協業の成果

愛・地球博開幕10周年記念事業（1月～3月）

平成17年に開かれた国際博覧会、愛知万博（「愛・地球博」）の開幕10周年を機に「自然の叡智」をテーマにした愛知万博の理念を再び発信しようというものです。CBCグループは、パビリオン出展や公式FMの運営など愛知万博に深く関わったこともあり、「愛・地球博開幕10周年記念事業」として、放送、新聞、イベント、Web等を広く活用した立体的な事業を展開しました。(株)シー・ウェーブが中心となって協賛スポンサーを集め、(株)CBCテレビと(株)CBCラジオは特別番組の放送とイベントの運営にあたり、(株)CBCクリエイションは、イベント会場の映像制作を担当しました。

》不動産関連

このセグメントは、中部日本放送(株)と(株)千代田会館で構成されます。

「不動産関連」は、東京の賃貸ビルにおいてテナントからの賃料収入が減少したことなどにより、売上高は14億46百万円(前期比1.9%減)となりました。営業利益は、所有する商業施設において大規模な修繕を行ったことなどにより、5億94百万円(前期比28.9%減)となりました。

》ゴルフ場

このセグメントは、(株)南山カントリークラブで構成されます。

「ゴルフ場」は、名義書換料収入が減少したものの、プレー収入の増加により、売上高が5億18百万円(前期比0.8%増)となりました。売上増加に伴い、営業利益は17百万円(前期比30.0%増)となりました。

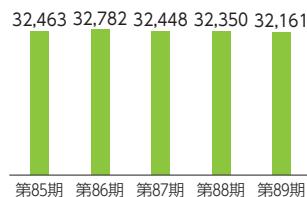
》その他

保険代理業などを営む(株)CBCビップスとタクシー業を営む文化交通(株)で構成される「その他」は、売上高が8億51百万円(前期比3.1%減)、営業利益は73百万円(前期比7.1%減)となりました。

当連結会計年度におけるわが国経済は、年度当初に消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられましたが、基調的には底堅く推移しました。個人消費の面でも、消費税率引き上げの影響は全体としては和らいでおり、企業の設備投資も緩やかな増加基調となりました。一方、テレビの広告市場は、全体としては景気動向に連動する形で堅調に推移しましたが、年度末に向けては駆け込み需要のあった前年同期に比べて落ち込む形となりました。

このような事業環境の下、当社グループの当連結会計年度の売上高は、321億61百万円(前期比0.6%減)となりました。利益面では、営業利益は16億65百万円(前期比11.9%減)、経常利益は20億86百万円(前期比6.0%減)、当期純利益は13億12百万円(前期比11.2%増)となりました。

● 連結売上高 (単位:百万円)



● 連結経常利益 (単位:百万円)



● 連結営業利益 (単位:百万円)



● 連結当期純利益 (単位:百万円)



連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 平成27年 3月31日現在	前期 平成26年 3月31日現在
《資産の部》		
流動資産	26,106	24,655
固定資産	41,200	36,953
有形固定資産	23,486	22,527
無形固定資産	316	395
投資その他の資産	17,397	14,031
資産合計	67,306	61,608
《負債の部》		
流動負債	7,730	5,515
固定負債	11,497	11,081
負債合計	19,227	16,596
《純資産の部》		
株主資本	46,440	45,583
資本金	1,320	1,320
資本剰余金	654	654
利益剰余金	44,467	43,609
自己株式	△0	△0
その他の包括利益累計額	884	△1,337
その他有価証券評価差額金	3,477	2,079
退職給付に係る調整累計額	△2,592	△3,417
少数株主持分	754	765
純資産合計	48,079	45,011
負債純資産合計	67,306	61,608

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで	前期 平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで
売上高	32,161	32,350
売上原価	17,783	17,641
売上総利益	14,378	14,708
販売費及び一般管理費	12,713	12,818
営業利益	1,665	1,889
営業外収益	493	427
営業外費用	72	96
経常利益	2,086	2,220
特別利益	80	12
特別損失	47	68
税金等調整前当期純利益	2,119	2,163
法人税、住民税及び事業税	1,179	1,102
法人税等調整額	△367	△132
少数株主損益調整前当期純利益	1,307	1,193
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△5	12
当期純利益	1,312	1,181

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで	前期 平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	3,384	3,124
投資活動による キャッシュ・フロー	△3,461	△1,234
財務活動による キャッシュ・フロー	△858	△753
現金及び現金同等物の 増減額	△935	1,137
現金及び現金同等物の 期首残高	15,422	14,284
現金及び現金同等物の 期末残高	14,486	15,422

- 設立年月日 昭和25年12月15日
- 商号 中部日本放送株式会社 (略称CBC)
- 英文表示 CHUBU-NIPPON BROADCASTING CO.,LTD.
- 本社 名古屋市中区新栄一丁目2番8号
- 資本金 13億2千万円

■ 子会社の概況

会社名	資本金 (百万円)	当社の出資比率 (%)	主要な事業内容
(株) CBC テレビ	100	100.0	放送法による放送事業 (テレビの放送)、番組制作販売、音楽・スポーツ等のイベント等
(株) CBC ラジオ	20	100.0	放送法による放送事業 (ラジオの放送)、放送送出業務の請負
(株) CBC クリエイション	40	100.0	放送番組の企画制作
(株) シー・ウェーブ	30	100.0	広告代理業
(株) 千代田会館	300	66.6	不動産の所有・賃貸・管理
(株) 南山カントリークラブ	10	100.0	ゴルフ場の経営
(株) CBC ビップス	60	100.0	不動産の管理、保険代理業、プレイガイド、OA機器販売
文化交通 (株)	20	100.0	タクシー業

■ 取締役および監査役

代表取締役会長	大石 幼一
代表取締役社長	杉浦 正和
取締役相談役	夏目 良一
取締役	小嶋 山一
取締役	岡田 篤彦
取締役	岡野 邦彦
取締役	河安 英香
取締役	河津 尚一
取締役	林村 元一
取締役	村升 誠司
取締役	伊藤 道之
取締役	近藤 肇彦
常勤監査役	佐藤 孝之
常勤監査役	石野 文夫
監査役	川口 昌治
監査役	柴田 日出男
監査役	小笠原

株式情報・株主メモ

(平成27年3月31日現在)

発行可能株式総数 80,000千株
 発行済株式の総数 26,400千株
 株主数 3,107名

■ 大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社中日新聞社	2,602	9.85
竹田本社株式会社	1,700	6.43
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,300	4.92
三井住友信託銀行株式会社	1,167	4.42
JP MORGAN CHASE BANK 385093	1,163	4.40
株式会社ナゴヤドーム	1,040	3.93
中部電力株式会社	883	3.34
株式会社名古屋銀行	825	3.12
名古屋鉄道株式会社	822	3.11
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	786	2.97

■ 株式分布状況

所有者別株主数 / 所有者別株数	株主数	株数
政府・地方公共団体	12名	1,454,724株
金融機関	20名	7,043,820株
証券会社	12名	32,819株
その他の法人	96名	10,872,092株
外国法人等	29名	2,316,783株
個人・その他	2,937名	4,678,674株
自己名義株式	1名	1,088株

■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
剰余金の配当の基準日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
株主に関する住所変更等のお届出およびご照会について	証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-782-031
(インターネットホームページURL)	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
特別口座について	株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。
公告の方法	当社のホームページに掲載します。(http://hicbc.com) ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、名古屋市中で発行される中日新聞に掲載します。
上場金融商品取引所	名古屋証券取引所市場第一部

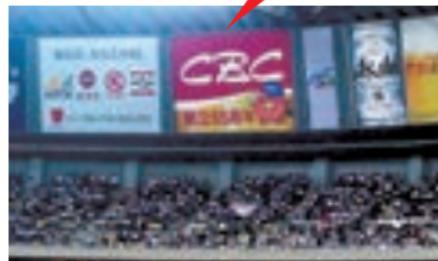
CBC創立65周年の
アイキャッチが
できました！



平成27年4月から平成29年3月末まで2年間にわたるCBC創立65周年イヤーズに合わせて、アイキャッチが完成しました。

CBCのイメージキャラクター・ころんちゃんと65の数字を組み合わせてデザインしたものです。

また、ナゴヤドーム上段の広告看板も創立65周年をアピールする赤を基調にした目立つものに向け替えられました。



CBC

中部日本放送株式会社

本 社

〒460-8405 名古屋市中区新栄一丁目2番8号

電話 (052) 241-8111 (代表)